

# じゅしゅう

## 永代経法要 厳修

十月二十一日(土)に当山の永代経法要が厳修されました。昼と夜の二座おつとめさせていただきましたが、昼の法要では今年一年の間に永代経懇志をご寄贈いただいた方々を顕彰する永代経開關法要を併修し、夜は総永代経法要としておつとめをさせていただきました。

また、ご法話の講師として貝塚市の安方哲爾先生をお迎えし、お聴聞させていただきました。先生は「浄土真宗のご法義」とはどんなことかと、まずはお示しください。

浄土真宗のご法義とは、阿弥陀さまという仏さまが

私をお救いくださるご法義であります。では、どのようにお救いくださるのか。それは、「南無阿弥陀仏」という名前となって、言葉の仏さまとなって、今すでに私のところに来てくださっておられます。私の身の中に入り満ちてくださるのです。つまり、私の口から南無阿弥陀仏とこぼれ出てくださるのが阿弥陀さまそのものなのです。

阿弥陀さまは遠いお浄土におられるのではなく、お仏壇の中に鎮座まします。おておられるわけではありませんが、今私のいのちの上には南無阿弥陀仏と響き渡っておられるのが阿弥陀さまな

のです。

ここで一度皆さまと一緒に一念仏申しましょう。「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、」。今皆さまのお称えになった南無阿弥陀仏が、お聞きになった南無阿弥陀仏が、阿弥陀さまそのものです。私の声ではありません。阿弥陀さまがどこにおられるか探さなくてもおぼれてくださった南無阿弥陀仏が阿弥陀さまそのものです。

我々はこの度の人生一人ではありません。いつもこの仏さまがご一緒してください。



終わるその時に阿弥陀さまに抱かれてお浄土へまいります。これが浄土真宗のご法義なのです。

けれども、私たちはこの話を聞いても何のことか分かりません。なぜなら経験ができないからです。ですが、そのことはすでに阿弥陀さまはご承知です。分かりなさいとは仰らない。阿弥陀さまは私のいのちの中に入り満ちて必ず救い取るから、今はただ聞いておきなさいと仰るのです。

それがお聴聞なのです。とお示しをくださいました。

弥陀大悲の誓願を

ふかく信ぜんひとはみな

ねてもさめてもへだてなく

南無阿弥陀仏をとなふべし

親鸞聖人『正像末和讃』

第55号  
(通算395号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

### 浄覚寺ヨガ教室

- ・11月15日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。



# 御文章に聞く(第48回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸浄圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。八万の法蔵章の中で、愚者と智者という言葉が出てきます。通常では学問の豊かな人を智者と呼び、それに対して学問的素養のない人を愚者と考えます。確かに社会一般の能力中心の価値観で評価すればそうかもしれません。

**八万の法蔵章(五帖第二通)**  
 それ、八万の法蔵をしるといっても・後世をしらざる人を愚者とす、たとい一文不知の尼入道なりといとも・後世をしると智者とすといえり、しかれば当流のこころは・あながちにもろもろの聖教をよみ、ものをしりたりというとも・一念の信心のいわれをしらざる人は・いたざらごとなりとするべし、

# 仏教語辞典



すべてのもの(結果)には、必ずそれらを生んだ因と縁があり、初め起る結果がある。それを因縁生起(いんげんせいぎ)という。「阿含経」には、「これある故にこれあり、これ起る故にこれ起る、これ無き故にこれ無く、これ滅する故にこれ滅す」とあり、お互いが密接に作用しあっており、仏の存在があることを説いている。仏

## 縁起

しかし、蓮如上人は仏道の中で愚者と智者の違いを述べようとされたのです。

「愚者と智者」  
 仏道を歩む者にとつて、真の目的とは何なのか。それは「出離生死」という言葉であらわされているように、自らの人生を仏さまの言葉によつて、人間としての正しい生き方と、逃れることのできない死の正しい意味を聞き分けて、かけがえのない一生を真に豊かに生き死にすることよりほかにないのです。

そのために蓮如上人は、「知るべきものを知り、その道を歩む人」と「正しく知り、身をもって実践しなければならぬことを、知識だけにとどまらずに身についたと錯覚している人」を愚者と智者とに分けられたのです。

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

# 編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。十一月の行事は例年(コロナ以前は)他寺院さまへの報恩講団体参拝を予定しておりましたが、この度からは、法要日時をお知らせし、各個人にてご参拝いただく案内とさせていただきます。ご縁に遇つただければと思います。お聴聞のご縁にフェスティバルホールで行われる雅楽公演会には住職も出演します。ぜひご観覧いただけます。(釋法道)

# 行事案内

- ・本願寺津村別院(北御堂) 報恩講  
 日時・十一月十一日(土) 十六日(木)
- ・久宝寺御坊 顕証寺 報恩講  
 日時・十一月二十六日(日)、二十七日(月)  
 (法要の案内です。ご予約いただき、ぜひご参拝ください。)
- ・天王寺楽所 雅亮会 雅楽公演会  
 日時・十一月二十七日(月) 十八時半開演  
 場所・フェスティバルホール  
 (ご連絡いただければ希望枚数のチケットを差し上げます。)



12月17日(日) 10時~16時  
 浄覚寺じゅも会冬のひまわり

